

鳥取県和牛振興計画（案）の策定について

令和3年3月1日
畜産課

令和2年10月に制定した「鳥取県産和牛の保護及び振興に関する条例」に基づき、鳥取県産和牛の生産から加工流通、販売までの和牛産業の振興に向けた方針や目標値等をまとめた鳥取県和牛振興計画（以下「振興計画」という。）について、昨年10月から1月中旬まで生産者、関係者らの意見を伺い、概要をまとめましたので、報告します。

現在、パブリックコメントを行っており、その結果を反映して、振興計画を策定していく予定です。

1 振興計画の概要

(1) 構成案：「将来像」「現状及び課題」「基本方針」「数値目標」「取組」などで構成

(2) 将来像：遺伝資源管理、生産、和牛改良、加工流通販売の4部門の目指すべき将来像を設定

「和牛といえば鳥取」と呼ばれる産地を目指す	
遺伝資源管理	①県民の財産である県有種雄牛の遺伝資源を大切に守り、未来に継承される仕組みが確立されている
生産	②意欲的な和牛担い手農家（繁殖、肥育）が育ち、鳥取県の和牛生産を支えている。 ③全国から最も注目される活気のある子牛市場となっている。 ④全国和牛能力共進会では常に上位にいる。
和牛改良	⑤和牛改良を意識した生産者により、産肉能力や繁殖能力の高い繁殖雌牛が揃っている。 ⑥生産者、消費者ニーズに応える日本の和牛を支える種雄牛がいる。
加工流通販売	⑦鳥取和牛が県の特産品として県民に愛され、観光産業の中心になっている。 ⑧鳥取和牛が有名ブランド牛を超える価格で取引される。

(3) 計画の確認：10年後の2030年の目標を設定し、毎年進捗状況を確認。計画は和牛全共の開催を目安に5年ごとに見直しを行う。

(4) 主な数値目標

目標項目	(2019年⇒2030年)	概要
繁殖雌牛頭数	(4,089頭⇒7,000頭)	今までの目標は5,000頭。R2年2月1日時点は4,542頭であり、R3年2月1日時点では5,000頭を超える可能性が高いため、さらに高く設定。
肥育出荷頭数	(3,066頭⇒5,000頭)	今までの目標は5,000頭。現在は横ばいであるが、ブランド向上を図るためにも出荷頭数の増加が必要。
認知度向上(新)	(4.8%⇒30%)	県の認知度調査では鳥取和牛の認知度が低いため、砂丘らっきょ(31.2%)、カニ(31.1%)の認知度を目指す(二十世紀梨は59%)
有名産地との枝肉単価比(新)	(85%⇒100%以上)	単価が公表されているブランド牛として神戸牛、飛騨牛などがあるが、まずは飛騨牛の価格を目標とする。

2 スケジュール(予定)

R2.10月13日	鳥取県産和牛の保護及び振興に関する条例
10月21日	鳥取県和牛振興会議
11～1月	各専門部会の開催(11/19生産部会、11/25遺伝資源管理部会、12/14和牛改良部会、1/8加工流通販売部会、1/15生産部会)
2月	パブリックコメント(2/24～3/5) 生産者及び関係団体への意見聴取
3月1日	常任委員会報告
3月下旬	鳥取県和牛振興会議
3月24日	常任委員会報告(パブリックコメント及び振興会議の結果報告)
3月末日	振興計画の策定